

IMWG ガイドライン：

多発性骨髄腫患者さんの管理のための施設および業務について

下記のガイドラインは、Palumbo らによる、「標準的な自家幹細胞移植を伴う大量化学療法に適応がない多発性骨髄腫患者を対象とした国際骨髄腫ワーキンググループ管理ガイドライン」Leukemia（白血病）(2009), 1-15 からの引用である。

http://myeloma.org/pdfs/IMWG_guidelines_ineligible.pdf

骨髄腫の患者さんを看護するために設立されたどんな臨床部門に於いても、最も重要な特徴は医療スタッフの訓練と専門技術である。下記は治療方針の決定や、患者さんの管理を支援するために必要とされる診断業務及び専門業務である。患者さんの支援業務を有することは、優秀な専門施設であるという証明には望ましいが必須ではない。

施設

- ・ 特定の治療や支援業務の利用についての明確な方針や臨床試験計画を持つ、多発性骨髄腫の治療に専念する、専門の診療部門を作ることを推奨する。
- ・ 医療従事者の適切な技術と経験を確保する為に、月に2人以上の新しく診断を受けた患者さんが導入療法を受けるべきである。

多発性骨髄腫の患者さんの管理のために求められる専門技術と業務は以下の通り。

診断業務	<ul style="list-style-type: none">・ 診断的血液学、及び、血液病理学・ 臨床生化学、及び、免疫学・ 診断的放射線医学
専門業務	<ul style="list-style-type: none">・ 腎臓科、緊急血液透析の利用を含む・ 臨床腫瘍学／放射線治療・ 整形外科・ 脳神経外科・ 認定を受けた骨髄／幹細胞移植センター

支援業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 血液／腫瘍看護専門家 ・ 緩和療法医／看護師 ・ 細胞障害性薬物を調剤する専門技術と設備を持つ薬局 ・ 物理療法／リハビリテーション ・ 症例登録、監査、及び、臨床試験の為の実施支援 ・ 利用可能な社会福祉事業や経済問題に関する助言の案内を含む患者さん向けの情報 ・ 患者支援団体
------	--

出典：IMF ホームページ：IMWG Guidelines

<http://myeloma.org/ArticlePage.action?tabId=0&menuId=0&articleId=2967&aTab=-1&gParentType=nugget&gParentId=18&parentIndexPageId=284>

翻訳者： 村上

監修者： 日本の顧問医師

患者さんご家族、医師およびコメディカルが協力し診療あたることが大切である。日本においてもこのガイドラインのような骨髄腫の治療や臨床試験のために最適化された環境の整備が望まれる。